

図柄入りナンバープレート等に関する検討会（第5回）

議事概要

1. 日時：令和7年5月12日（月）15：00～17：00
2. 場所：国土交通省低層棟共用会議室6
3. 出席者：石田勝利委員、石田東生委員、岡安委員、北嶋委員、竹岡委員、寺井委員、
吉田委員（50音順）

4. 議事概要

- （1）資料1、2の説明後、議事2について議論を行った。
- （2）資料3の説明後、議事3について議論を行った。
- （3）資料4の説明後、議事4について議論を行った。
- （4）議事5及び議事6について議論を行った。

<議事2 自動車ユーザーに対するアンケート調査の報告等について>

- 「図柄入りナンバープレート制度に対して、どのように感じますか。」の問に対する回答として「ナンバー認識性が落ちる。」といった意見も確認できるが、図柄入りナンバープレートについて、ナンバー認識性や安全性には万全を期していることをユーザーにしっかりと周知する必要があるのではないか。

<議事3 全国版図柄入りナンバープレート及びモノトーン版の取扱いについて>

- 前回と今回のユーザーアンケートを考慮すると、モノトーンを廃止しても困る人は少ないことからモノトーンを廃止してもよいのではないかと。アンケートによりモノトーン基調の図柄にもニーズがあることが判明したことを踏まえれば、モノトーン基調の全国版を追加することが適当ではないかと。
- モノトーン廃止について異義はないが、一般ユーザーに前向きにとらえてもらえるのか、ユーザーの選択肢が少なくなるマイナスの改変と捉えられることを懸念。改変に伴い、ユーザーのメリットとして例えば車生活を楽しむ、あるいは地域振興及び交通政策に活かされるといった将来の話や、新しいナンバープレートを選択できる等といった改善・拡張とセットで説明することが必要ではないかと。最もメリットがあるモノトーン基調の全国版を追加することが望ましいが、次の段階でどう取りまとめていくかが重要ではないかと。さらに、アンケート結果では、図柄入りナンバープレートを付けていない人のうち約9割が図柄ナンバープレートに興味がないということから、これらの人に興味を持ってもらうために、どのように訴求していくかが重要ではないかと。
- モノトーン廃止に賛成。ネガティブに捉えられないようにユーザーに説明することが重要。

モノトーンを選びたいユーザーはモノトーン基調の新たな全国版を選んでいただき、フルカラーを選びたいユーザーは地方版を選んでいただくといったストーリー性のあるメッセージをユーザーに伝えていくことが重要であり、伝え方を是非検討いただきたい。

- 資料では寄付金額を試算しているが、どれくらいユーザーに付けてもらえるのかといった視点が必要と考える。ユーザーに選択肢を提供することを考慮した結果、モノトーン基調の全国版追加に帰着したということではないか。一方、図柄ナンバープレートを付けていない人へのアンケートにおいて、モノトーンをつけたいと思う者は13名しかいなかったが、モノトーン的设计が良いからという理由が最も多く、通常のナンバープレートの色が好きではないためという理由を若干上回っている。前回のモノトーンユーザーへのアンケート結果においてもモノトーン的设计が良いとする者が一定数いたことから、地方版のモノトーンの廃止に合わせて新たにモノトーン基調の全国版を提案することにより、より多くのユーザーに図柄入りナンバープレートを付けていただくという当初の制度目的に合致するのではないか。
- フルカラー版の色を抜いたものをモノトーンとするのではなく、モノトーン専用のデザインにすることでユーザーにより良いものを提供できるのではないか。このため、新たな全国版をモノトーン基調とする案が良いと思う。
- 困る人が少ないのであれば、既存のモノトーンは不要であり、モノトーン基調の全国版追加が良いのではないかと思う。アンケート結果によれば、図柄入りナンバープレートの寄付金の存在を知らなかったとする者が一定数いるのは課題。身近な寄付である「ふるさと納税」を参考に、寄付金の説明をわかりやすくしていくことが大切ではないか。
- ユーザーや国民への配慮は大切だが、図柄入りナンバープレート制度の持続性を維持することも大切であり、供給サイドの事情もしっかりと説明していく必要がある。ナンバープレートのシステム、寄付金も含めて、現在受け入れられている良いものをさらに伸ばしていくことが必要ではないか。ユーザーにポジティブな印象を持っていただくために地方創生を大事にしたいということを明示し、寄付金を活用してしっかり地方創生につなげていくことを説明することが大切ではないか。
- 新たなモノトーン基調の全国版に取り組んでいく場合に、モノトーン専用のデザインという話があったが、最初からモノトーンを前提としたデザインの募集方法とすることで、より魅力的な図柄の提案をしていただけるようになるのではないか。募集方法についてもぜひ検討をいただきたい。

<議事4 地方版図柄入りナンバープレートの次回導入のあり方 について>

- 台数要件について、制度の創設当初に、あまり少ない台数にならないよう供給側の事情も配慮されていたところであるが、制度の創設当初から保有台数自体が約2割減少している状況、

政府として地方創生を推進している状況も理解する。供給側としてもモノトーン廃止とセットでの台数要件の見直しは考えられるところ。自動車登録台数が制度創設当初と比較して今後も2割3割と減少していくことを考慮すると、登録車で7万台以上であれば対象は44地域への拡大にとどまることから、対応可能ではないか。

- ボーダーラインとなっている10万台の閾値を下げていく総論には賛成。現行でも複数市町村で導入する場合は、概ね5万台という要件であるところ、7万台とする場合に供給者側の経費的な持続可能性を考慮する必要があるのではないか。また、導入地域のユーザーに図柄入りナンバープレートを選択いただけないと本末転倒になるため、地域における導入促進とセットで考えていく必要があるのではないか。
- 供給者側の対応の持続可能性の維持にあたっては、導入地域のユーザーに図柄入りナンバープレートを選択していただけることが重要となることから、導入地域においてなるべく多くのユーザーの方に図柄入りナンバープレートを付けていただけるような普及促進の努力が必要ではないか。
- 供給者側の持続可能性においては、当該地域の自動車登録台数の多寡は一つの目安にはなるが、自動車登録台数だけでなく、導入地域のユーザーにどれだけ図柄入りナンバープレートを選択いただけるかが重要。普及率が低い地域については持続可能性の観点から問題あると考えられるが、導入要綱において地方創生の観点から前向きな取り組みを規定することはできないか。
- 交付枚数が伸びていない地方版図柄入りナンバープレートはデザインに問題もあると思われる。現行の地方版図柄入りナンバープレートにおいては、デザイナーを活用してデザイン候補を上げながらみんなで決定していくといった流れができつつあるので、デザインのなところも活用できるようなアドバイスをしていくことが重要ではないか。

<議事5 希望番号取得者の新たな決定方法の方向性>

- 抽選対象希望番号の当選者は、番号の払底対策の観点からも1週間に4者を限度とする運用としているため、中々当たらないという声もあるところ。寄付金を募って優先的に枠を設ける案は、マラソン大会の例を参考にすればユーザーに対して合理的な説明ができるだろうし、ユーザーアンケートでも寄付金活用に賛成する声も多い。一方で、交付手数料は実費を勘案して設定することとされており、公益目的に活用はできない。現行の希望番号制度において、全国で統一的に抽選対象とする番号と地域毎に人気が高く個別に抽選対象としている番号が存在しているところ、地域別の抽選対象番号もどのように取り扱うか考慮していく必要がある。
- 抽選倍率を下げて、真に希望する方ができるだけ早く入手できるようにすることが目的であれば、寄付金の設定も一つの手段になると思うが、寄付金を取る以外にも抽選を毎日実施する

などの抽選の仕組みの変更といった手段も考えられるのではないかと。寄付金の設定のようにお金で抽選倍率を下げようとすると、お金持ちを優遇する制度として受け取られかねない。抽選倍率を下げるために寄付金の設定とする場合にはその理由をユーザーにしっかりと説明する必要があるのではないかと。

- 申込時ではなく当選時に寄付金を必要とした場合、抽選倍率はあまり下がらないのではないかと。例えば、抽選倍率が1倍だと1,000円、9倍だと9,000円といったように倍率に応じて寄付金額を上げていく方法ならば、抽選倍率の低いナンバーを選んで申し込むインセンティブになる。
- ホームページで抽選対象番号が公表されているので、どうしても抽選対象番号を取得したい人はいくらでも寄付をすることが想定される。そうでない人に対しては、抽選対象番号の当選時に寄付金を必要とした場合、抽選倍率自体はそこまで下がらないのではないかと。抽選倍率を下げたいなら他の方法についての議論も必要になると思われる。
- 抽選対象番号に寄付金を設定しようとした場合、ユーザーから寄付金を一時的に受け取る立場となるディーラーの理解を得る必要があるが、抽選倍率に応じて寄付金額を上げていく方法とする場合は、理解を得るためのハードルがさらに高くなると思われる。
- 抽選対象番号に寄付金を設定しようとした場合、お金持ちが何でもお金を払えば好きなことができるという受け取られないよう説明が必要。
- 希望番号を取得するために納める寄付金の希望額調査は、寄付金を支払う意思のある半数の回答者を対象としており、残り半数は寄付金無しでの抽選を希望しているとも考えられるのではないかと。一方、応募の時は払わないとなると、高倍率であっても実際に払う可能性が低くなるため、高倍率に集中する番号には寄付金額を設定しても抽選倍率の低減に効果が無いのではないかと。
- 希望番号制度において抽選対象の番号とそうでない番号があるのであれば、交付手数料との整理が必要になるが、抽選番号が欲しい人には抽選料として一定以上の比較的高額と思われる寄付金を設定する方法も考えられるのではないかと。

<議事6 中間とりまとめ概要(案)>

- 中間とりまとめには、地方版図柄入りナンバープレートが地方創生に取り組むために重要な取組になる等のプラスの面を強調して記載することが必要ではないかと。
- 中間とりまとめにおいて、今後、例えば、地方版図柄入りナンバープレートの導入がなされていない地域において、他の地域の人気のある図柄を取り付けられるといった制度を考えてい

く方向性を記載してはどうか。

- 現行の地方版図柄入りナンバープレートを他の地域でも取り付けられるようにするためには、供給側等において解決が必要な課題が多く存在する。ただ今のご提案については、供給体制、交付体制、寄付金の取扱い等々様々な課題について、慎重な検討が必要となると思います。
- もし実施するというのであれば、実施したい自治体に手を上げていただき、コストアップへの責任をしっかりと取ってもらうこと様な対応は必要になるのではないかな。なお、自治体によっては、自分たちの図柄を地域名表示が異なる地域には取り付けがほしくないというところもある。
- これまで議論してきた方向性だけでなく、図柄入りナンバープレート制度として目指していることや課題についても書き加えてはどうか。また、モノトーンとフルカラーの2極化とするのではなく、車のデザインと調和したデザインを目指すことを書き込んでほしい。車のデザインと調和した図柄入りナンバープレートを新たに導入することにより、更に図柄入りナンバープレートの交付が増えるきっかけになり得るのではないかな。
- ただ単にモノトーンをなくして、画一的な白黒のデザインを進めるというより、「車のデザインに調和しやすい色調やシンプルなデザイン」など最終的な表現の落としどころはもう少し検討してはどうか。

以上